|  |
| --- |
| **学校経営推進費　評価報告書（２年め）** |
| **１．事業計画の概要** |  |  |  |
| **学校名** | 大阪府立堺工科高等学校　定時制の課程 |
| **取り組む課題** | 生徒の自立を支える教育の充実 |
| **評価指標** | １ 生徒の自己有用感、挨拶、マナー、コミュニケーション能力、職業観等の向上（学校教育自己診断）２ 環境問題やボランティア活動に対する意識の向上３ 中途退学率の減少, 不登校生徒の減少、進級卒業率の向上  |
| **計画名** | 「学校油田」プロジェクト～プラスチックゴミで発電を～SDGsの観点から |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** |  |  |  |
| **学校経営計画の****中期的目標** | ２　生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化（２）特別活動、生徒会活動、部活動等を通じて、生徒の自己有用感を醸成する。ア　生徒会行事、生徒の自主活動、ボランティア活動や地域連携事業の継続と発展をめざす。【地域連携事業】エコ・プロジェクトや地域・企業等と連携した「ゆめ・チャレ（小学生の職業体験）」等の就労体験活動のさらなる発展充実※　様々な事業に応募し、その活動を通して生徒の自己有用感を醸成する。 |
| **事業目標** | 本校生徒に自信を持たせ、コミュニケーション能力を身につけさせる。また、基本的な生活習慣を身につけさせ、進級・卒業率を上げることや、中途退学率を減らす必要がある。* 工科高校ならではの「ものづくり」を通じて地域に誇りを持ち、自分にも誇りを持つ。
* 環境活動を通して学校外で様々な体験をし、基本的生活習慣を身につけ、コミュニケーション能力等をつける。
* 地球温暖化などの環境問題と、自然災害との相互関係について、「学校油田」プロジェクトに取り組むことにより学び、「復興支援プロジェクト」（学校経営推進費事業）で得た防災知識と結びつけ、自助・共助の精神を養う。
* ボランティア活動に積極的に参加し、他者から感謝されることにより自己有用感を高める。
* 地球温暖化防止などの環境問題に取り組み、「プラスチックゴミ」で電気を作り、SDGsの観点から地域や被災地に向けて発信し、環境・防災の拠点校となる。
 |
| **整備した****設備・物品** | ・プラスチックゴミ油化装置一式（改良費含む）・プラスチック粉砕機 |
| **取組みの****主担・実施者** | プロジェクトリーダー：進路指導主事・学校設定教科｢堺学」主担学校油田プロジェクト企画・運営：「エコ・プロジェクト」及び｢堺学」担当教員地域（町会・小中学校等）との連携推進：進路指導部生徒に対する諸活動：生徒会活動部プラスチックゴミ油化装置・廃油再生燃料化装置・バイオディーゼル発電機の製作・改良：機械系・電気系職員 |
| **本年度の****取組内容** | 「プラスチックゴミ油化装置」の改良を行った。また、次世代に環境問題について考えてもらうために、子ども用「電動マリオカート」も製作した。「バイオディーゼル発電機」の改良にも本格的に取り組み、これまでの活動に加えて、生徒が製作した「プラスチックゴミ油化装置」及び「バイオディーゼル発電機」・「電動マリオカート」を地域や全国の被災地（被災地訪問も実施）などで活用することができるような体制作りを行った。プロジェクト参加生徒の増加により迅速な「学校油田」化が進み、生徒の自己有用感も高まり、中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上につながった。 |
| **成果の検証方法****と評価指標** | １ 「学校へ行くのが楽しい」「この学校には他の学校にない特色がある」「地場産業について学び、体験する機会が多い」（学校教育診断）65％以上２ 退学率10％台の維持、１年生の進級率（65％以上）、学校全体の進級卒業率（75％以上）３ 学校油田プロジェクトへの参加生徒50％４ １年次エコプログラムの改良と２年次プログラムの作成・実施 |
| **自己評価** | １ 学校教育自己診断の各項目の肯定率は、「学校へ行くのが楽しい」68％、「この学校には他の学校にない特色がある」75％、「地場産業について学び、体験する機会が多い」67％と、65％以上を達成した。 （○）２ 退学率10％台の維持、１年生の進級率（65％以上）、学校全体の進級卒業率（75％以上）を目標としたが、退学率5.1％、１年生の進級率81.8％、学校全体の進級卒業率は88.6％と大幅に上回った。 （◎）３ 全プロジェクトへの参加生徒50％を達成した。 （◎）４ プログラムを改良し、実施することができた。 （◎） |
| **次年度に向けて** | 地域住民の方々と、近隣の河川及び海の「クリーンアップ」活動を行い、海洋プラスチックゴミを回収する。また、被災地においても各学校と協力し、プラスチックゴミを回収する。回収したプラスチックゴミは「プラスチックゴミ油化装置」及び「バイオディーゼル発電機」による発電の資源にする。また、学校に「プラスチックゴミ」ステーションを設置して、地域の「プラスチックゴミ」を回収し、発電機の燃料にする。また、作った電気を活用する「充電ステーション」も設け、地域イベントや有事の際の「スマートフォン」の充電サービス等を行う。プロジェクト参加生徒の増加により「プラスチックゴミ」の収集量を増やし、発電の成果をあげることにより、生徒の自己有用感の向上や、中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上につなげることをめざす。 |

**３．　事業費報告**

